

岡山県 総社市



自治体基礎データ

人口 (2019年4月末) 69,052人

面積 211.90km²

未就学児童数 (5歳以下) と世帯数 3,636人 27,920世帯

出生数 2017年度: 535人 2018年度: 524人

合計特殊出生率 2015年度: 1.41 2016年度: 1.53

人口流出数 2017年: 763人増 2018年: 580人増

未就学児童の年齢別数と保育状況 (2019年4月時点)

5歳児: 1号認定 301人 2号認定 319人 在宅 人

4歳児: 1号認定 305人 2号認定 326人 在宅 人

3歳児: 1号認定 254人 2号認定 294人 在宅 人

2歳児: 3号認定 327人 在宅 人

1歳児: 3号認定 280人 在宅 人

0歳児: 3号認定 71人 在宅 人

子ども・子育て支援及び高齢者対策を巡る自治体の特徴

【子育て世代の就業状況】

・就学前児童・小学生の父親の約9割がフルタイム勤務

・就学前児童・小学生の母親の約4割がフルタイム勤務

・就学前児童の母親の約4割が就労していない

・小学生の母親の約2割が就労していない

【世帯構成】

・就学前児童・小学生の約2割が三世帯世帯 (子どもと親と祖父母)

※数値については、平成30年度に実施したアンケート調査より記載 (就

学前児童・小学生世帯を1,000世帯ずつ無作為抽出し実施)

保育所待機児童数

【保育所・認定こども園・幼稚園・地域型保育設置状況】

(2019年4月時点) 11人

子ども・子育て支援関連予算額

2017年度: 44.0億円 2018年度: 56.4億円

それぞれの施策を進めるための庁内体制について (庁内組織数、企画部署名) 8部33課室 (市長部局)

子ども・子育て支援事業について (地域子育て支援13事業及び母子保健の実際)

①利用者支援事業 こども課に母子保健コーディネーター, こども夢づくり課に保育コンシェルジュを設置

②地域子育て支援拠点事業

・つどいの広場・市内4か所 ・地域子育て支援センター…市内5か所

③妊婦健診 無料券 (14回分) 配布

④乳児家庭全戸訪問事業 (こんにちは赤ちゃん事業)

生後4か月までの乳児のいる家庭をすべて訪問

⑤養育支援訪問事業等 乳児家庭全戸訪問等により把握した保護者の養育を支援することが特に必要なケースを訪問し, 養育に関する相談支援等を行う

⑥子育て短期支援事業 県内の事業所と契約し実施

⑦ファミリー・サポート・センター事業 市内NPO法人に委託して実施中 ・通常サポート 700円/1時間 ・同行サポート 500円/1回

⑧一時預かり事業 市内保育所 5か所で実施

・2,200円/日 1ヶ月に13日利用可能

⑨延長保育事業 全保育所, 認定こども園 (保育部) で実施

・400円/時間 5000円/月 保育短時間認定 7:00~8:00 16:00~19:00 保育標準時間認定 18:00~19:00

⑩病児保育事業 「ほっとチュッピー」を市内小児科医院に開設

・2,000円/日 1,000円/半日 ・昼食代 300円 おやつ代 100円

⑪放課後児童クラブ 市内14小学校区で実施中

⑫実費徴収に係る補足給付を行う事業 未実施

⑬多様な事業者の参入促進・能力活用事業 未実施



総社市役所



子育て王国看板



子育てほっとルーム（利用者支援）



子育て王国にぺこちゃんが

総社市へのヒアリング

1. 子育て世代包括ケアに関わる計画と事業内容

【総社市子ども・子育て支援事業計画】

事業内容については、現在、第2期計画を策定中。

第1期については、下記の6つの基本目標を掲げ、計画を策定した。

- 就学前の学校教育・保育の提供体制を充実させる
- 地域における子ども・子育て支援を充実させる
- 困難を抱える子ども・家庭を支援する
- 子どもと保護者の健康支援を充実させる
- ワーク・ライフ・バランスを推進する
- 次代を担う子どもの生きる力を育む

2. 利用者支援事業

【目的】

妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する様々な悩み等に円滑に対応するため、身近で気軽に利用できる場所において相談支援等を実施し、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援体制を構築する。

【内容】

- 安定した妊娠出産・育児を迎えるための相談支援
- 妊娠中から支援を必要とする妊婦に対する支援方針検討会議と支援プランの策定
- 出産後間もない時期の産婦に対する育児不安の解消や養育技術の提供等のための相談支援
- 心身の不調や育児不安があることなどから手厚い支援を要する産婦に対する支援方針検討会議と支援プランの策定
- 子育て支援の関係機関と連携した相談支援体制づくり

子育て世代包括支援センターにおける母子保健型で推進しているが、子ども家庭総合支援拠点及びつどいの広場事業ほか、きめ細かな地域子育て支援施策が子ども家庭の生活全体を支えている。（後述）

3. 地域保健福祉をはじめとする地域づくりに対する自治体としての考え

「子育て王国そうじゃ」を掲げた子育て施策の推進、予約型乗合タクシー「雪舟くん」（全ての世帯、全世代対象。分野にこだわらない）の運行、「障がい者千五百人雇用」や、「地食べ」による小規模農家の活性化、少子高齢化が急速化している地区の「英語特区」と定住助成制度の実施による地域再生など、福祉と連結した事業を進め、だれもが安全・安心で快適な生活が送れ、さらに多くの人に移り住んでくる施策を充実・強化していく。

4. 介護及び高齢者施策と子ども・子育て支援施策との連携事例の有無

未定

5. 地域保健福祉に関する協議体について

全市、5圏域、21地区の三層構造の協議体の設置

地域包括ケアシステムについては、国に先んじて平成17年度より取

り組んできた。

地域包括支援センター、社会福祉協議会、総社市が各ケア会議の事務局と構成員を担い、ケア会議ごとの検討課題や意見を共有できる体制として構築している。

平成 17 年 7 月より、21 小学校区に小地域ケア会議を発足。地区ごとの小地域ケア会議には自治会・町会、民生委員、地域住民などが参加、我がこととして課題を捉えてもらえるように仕込んできた。小地域ケア会議の取り組みをほかの地区とも共有できるよう、ポスター発表の手法で、中学校区ごとに合同小地域ケア会議を開催したところ、民生委員から合同小地域ケア会議の改名を提案され、平成 19 年より合同小地域ケア会議を圏域地域包括ケア会議に改名して、民生委員及び福祉委員も参加の第 2 層協議体とした。小学校区という住民の最も身近なところからシステムを積み上げてきた格好だ。

制度設計は、総社市が事務局を務める「総社市地域包括ケア会議」で協議、小委員会として設置している「地域医療介護連携推進委員会」で事業化まで担当。生活支援サービス検討委員会が、第 1 層協議体として、ニーズとサービスの調整を行い、生活支援サービスの構築とサポーター人材発掘を担う。

地域福祉の推進役は、社会福祉協議会が事務局を務める「圏域地域包括ケア会議」（第 2 層協議体）。

さらに地域の要として、地域包括支援センターが事務局を担う「小地域ケア会議」。その下に地域ケア個別会議を設置、事例ごとのマネジメントを推進している。

一般的な説明としては上記のような表現になるが、前述のように、総社市の場合は上からではなく下からの積み上げと見るのが、正しい。

地域ケア個別会議で個別課題を解決、解決に向けたネットワークを小地域ケア会議で構築、発見された地域課題を圏域地域包括ケア会議で協議、地域づくり資源の開発を行い、地域包括ケア会議で圏域の生活課題を共有することにより、総社市が抱える問題・課題を明らかにし、医療・介護・福祉の連携や政策反映を図る。これらにより、重層的な地域包括ケアをネットワークの構築、社会資源の発掘・開発を推進していく。

これらの取り組みの中で、生活支援コーディネーターは連携の核として積極的に動いている。

6. 地域団体・市民活動団体・企業などとの連携の状況

子育て支援においては、要保護児童対策地域協議会に医療機関・主任児童委員・民生委員の代表者に参画いただいている。また、地域における子どもの見守りの一環として、今年度より地域住民向けに児童虐待に関する研修を行っている。研修には、市内企業の従業員も参加いただいている。

7. 生活支援コーディネーター配置と人材養成について

平成 28 年より配置。

回答者

保健福祉部子ども課子育て支援係長 日笠哲宏さん

子育て支援係 渡邊一樹さん

福祉課課長補佐兼障がい福祉係長 中山知輝さん

障がい福祉係主事 片岡大士さん

長寿介護課地域ケア推進係主査 野瀬明子さん

【子育て王国そうじゃ 子育て王国事業】

総社市は“全国屈指の福祉先駆都市”を目指して保健福祉政策全体を充実させてきている。中でも、子育て支援施策については「子育て王国そうじゃ」を名乗ることで、市役所全体で、そうあるべきとの矜持を持って施策に取り組めるようプレッシャーを自ら与える効果を生んでいる。

政策の優先順位を決める際には、子どもを最優先にしている。

・総社市の子育て支援の方向性

“子ども本位”の視点で、地域・行政・学校が家庭をバックアップ、親も一緒に成長していく子育て支援。

・こども「そうじゃ教育大綱」

・家庭「親も共に成長していく」

家庭看護力の養成講座、中学校・高校での「赤ちゃん登校日」

・地域「地域力の結集による、子ども・家庭の見守り」

『総社市子どもを虐待から守る条例』の制定、『子ども虐待 SOS サポーター』の養成

・行政・学校「全国屈指の福祉文化先駆都市」を目指した福祉王国プログラムの枠組み

発達障がい児に対する「そうじゃ式早期一貫サポートシステム」による支援

福祉・介護・教育分野とも連携した「ひきこもり支援」

多様な性を認め合う社会の推進（LGBT への対応）

これらを通して、0 歳から 20 歳まで切れ目のない保健・福祉・教育の支援体制を構築している。

平成 28 年 8 月 22 日から。市役所西庁舎 1 階に保健福祉部子ども課と教育委員会を配置、キッズスペースを設けるなどして、こどもに関する手続き、相談支援が切れ目なくワンストップでできるようにしている。総社市では、このフロアを「子育て王国」と名付けている。

・子育て世代包括支援センター（子育てほっとルーム）

平成 28 年 8 月に子育て王国内にオープン。面接や手続きがしやすいように、遊びやおむつ替えのスペースを設けた。計測ができるので、気軽に立ち寄り、相談できる場となっている。

・「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会

「子育て王国」を目指して、平成 20 年 3 月に「子育て王国」応援団を結成。市民・企業・市・大学が協働して、総社市の社会性を活かしながら、まち全体で子どもを見守り、育てていこうとする機運を醸成することを目的に、それに賛同する個人を持って構成。平成 30 年 3 月までの 10 年間、「子育て王国そうじゃ」まちづくり委員会の実行部隊として活動した。事務局を NPO 法人保育サポートあい・あいが担当。

現在、「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会は、小児科医、県立大学職員、保育協議会、社会福祉協議会、愛育委員、栄養委員、主任児童委員、親子クラブ、農業後継者クラブ、子育て支援の NPO 法人、民間企業、人権擁護委員、司法関係者などで構成。チュッピー（総社市のマスコットキャラクター）子どもまつり、農業体験&食育プログラム、家庭看護力養成講座、小児科医による「子育て出前講座」などを開催している。

・つどいの広場との連携事業

市内 4 カ所に親子の交流スペースとして設置。運営を NPO 法人きよね夢でらす 子育て応援こっこと NPO 法人ほっとはあとが受託している。

地域と連携して多職種で親子の見守り支援ができる場合は重要であるとの認識のもと、子ども課との連携事業を行なっている。

- ・にここ訪問 初めは広場には行きにくいという声のもと、つどいの広場スタッフが訪問し、孤立化防止に向けた働きかけを行う。
- ・カンガルー広場 病院や市は相談しづらいという声のもと、気軽に立ち寄れる広場に専門職が出向いて相談できる場の提供。
- ・スマイル訪問 上記2事業に新たな事業をプラス、統合する形で令和元年7月からスタートした新規事業。こども課とNPO法人との連携により、育児困難を抱える親からの要請により訪問を行う「にここ訪問ぶらす」、月3会場でのカンガルー広場の開催、3会場での育児相談（つどいラッコ）の実施、他課とのコラボレーションによる大人の検診・予防接種・幼保説明会の開催。連携体制として、毎月1回ひろばスタッフ会議を開催、要フォロー児の支援方法の確認や情報共有・意見交換を行い、年に3回（前期・中期・後期）、ひろば代表者との連絡会を開催している。
- ・子ども虐待SOSサポーター養成講座 「総社市子どもを虐待から守る条例」に基づき、地域と連携した子ども虐待ゼロのまちを目指して、一般市民向けに「虐待」の知識を持ったサポーター養成講座を開催。地域での子どもの見守り強化を目指している。一般市民向けのこうした講座の開催は、全国でも珍しい。

【障がい者千五百人雇用】

平成20年のリーマン・ショックをきっかけに、障がい者の就労を支援しようと、岡山県立支援学校の新設誘致に動いたが、平成22年、設置はお隣の倉敷市に決定。では、卒業生の就労は総社市がお世話をしようとして体制整備に動く。

平成23年5月、ハローワーク、企業関係者などで組織する「障がい者千人雇用委員会」を設置、まずは5年計画で開始。同じ年の7月には、ハローワーク総社と「福祉から就労」支援協定を締結したことを受け、「就労支援ルーム」を設置し、市から職員2名がハローワークに常駐。同年10月には総社商工会議所と包括協定を締結し、会員企業に対し、助成制度の周知やセミナー、雇用意向調査、福祉的事業所の見学などを開始。同年12月には「障がい者千人雇用推進条例」を制定、障がい者千人雇用の実現のための基本的事項や、市・企業・市民の役割を明文化。

平成24年4月、マッチングと生活支援の拠点として「障がい者千人雇用センター」を設置、障害者就業・生活支援センターおよびハローワークから職員派遣。

平成25年4月には、障がい者千人雇用をライフステージ支援として位置付け。千人雇用を中心に、就学前・就学時の支援、安心した老後のための居住支援を視野に入れて政策を検討することに。

平成26年6月、福祉的就労から一般就労へ移行し、6カ月以上経過した方に10万円を支給する独自政策「就労移行支援金制度」を創設。平成29年5月、「障がい者千人雇用」事業による就労者1000人達成。同年9月、「障がい者千五百人雇用」事業として再スタート。

総社市には障害者手帳所持者が3000人おり、そのうち18歳から64歳の人は1200人。この方々を就労につなごうと、「障がい者千人雇用」事業とした。現在は1,060人程度を推移している。

特別支援学校への支援としては、2年生の頃から実習を始め、卒業時に本人と保護者、受け入れ団体、相談担当者が一堂に会して顔合わせを行う。担当者一人につき100ケース以上を受け持っている。

スタート当初は就労の内訳の半分以上が福祉的就労者だったが、一般就労者の割合は増えて6、7割が一般就労者となってきた。

障がい者千五百人雇用事業の体制は、障害者が就労を通して、生きがいを感じながら安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄

与することを目的に、総社市5名、ハローワーク総社6名、障がい者千五百人雇用センター4名が当たっている。

ハローワーク総社の2階に設置した「就労支援ルーム」では、「福祉から就労」に向けてワンストップで付き添い型の綿密な支援を実施。平成23年7月から平成31年3月までに市外の方も含む813人の障がい者が就職した。

障がい者千五百人雇用センターの職員は、登録者に対してマッチングから生活までマンツーマンでサポートを行うとともに、企業など就労先へのアフターケアも担当する。

他の分野の政策とも連携しており、例えば乗合タクシー「雪舟くん」を利用する際に障害者手帳所持者は100円割引で、片道200円で通勤できる。

障がい者の市県民税納税者数及び給与収入額がアップしてきた一方、短時間労働が増加して平均給与収入が低下していることが課題になっており、工賃アップに向けて、市がさまざまなアイデアを提供している。

【福祉王国プログラム】

総社市では、全国屈指の福祉先駆都市を実現するため、各課題に対し、分野をまたがる総合的な支援のための体制を構築することを目指している。

次々と福祉課題に立ち向かう総社市ゆえに行政主導と思いがちだが、実はそうではない。

NPO法人きよね夢てらす 子育て応援こっこだでヒアリングをしていた時に、「市では、何か地域課題があると必ず住民に「こういう課題があるんですが」と投げってくる。住民たちで協議して、自分たちでアクションを起こすことを決めるのを待っている」と福光さんがおっしゃった。きよね夢てらす自体、公立幼稚園の移転が決まり、跡地をどうするか、市は「住民のみなさんで決めてください」と、住民による協議と決定を求めた。結果、自分たちの拠点を作ることを決め、建物は市が建てたが、仕様は住民の協議の元に決められ、運営も住民たちで設立したNPO法人きよね夢てらすが行っている。

この総社市行政の姿勢を裏付けたのは、長寿介護課の野瀬さんが協議体について説明を始めたときだ。小地域ケア会議を始める時のこと。「やってみない?と地域住民に声をかけます。決定は住民。自分たちが暮らす街だから、住民同士で地域の課題を検討する場合は本当に必要なの?ということから、住民で話し合ってもらう。地域課題は自分たちの課題、我がこととして共有し、意見交換して、決定してもらおう。そこで助言するくらい（が行政の役割）。このスタンスが一番効果がある」先ほどの福光さんと同じことをおっしゃっている! 行政としての姿勢が、住民主体なんだ。

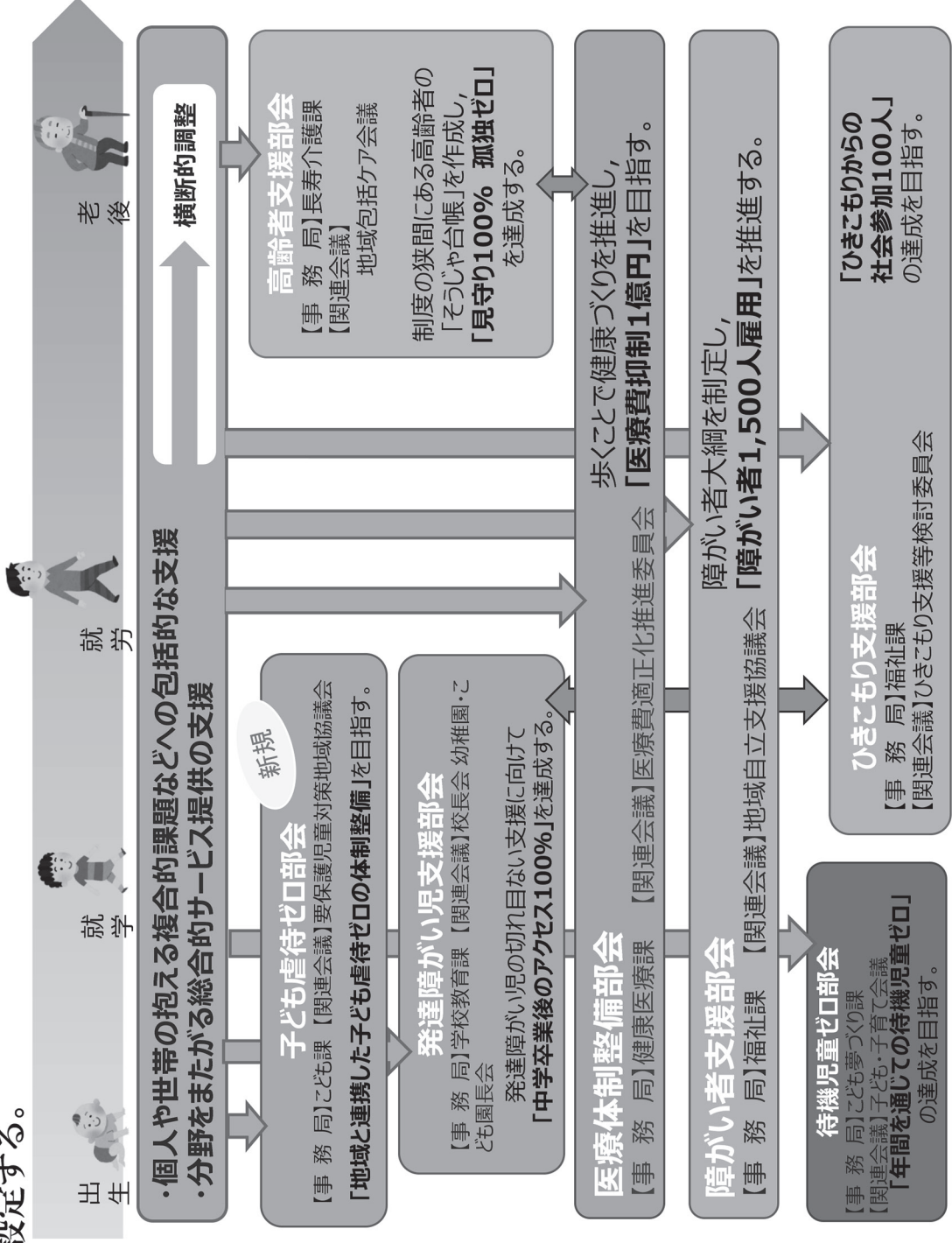
「行政が何でもできると思ったら、それは無理」野瀬さんはさらに続ける。「行政だけで進めるには限界がある」とこども課の渡邊さんも頷く。「自分たちが、（この地域が）住みよくなる一助になっている（と実感できる）。自分たちで考え行動する市民と、私たちは一緒に悩んでいます」（野瀬さん）

裏返せば、市民の力を信じているということか。

もう一つ特筆しておきたいのは、総社市役所内のフラットな雰囲気だ。職員同士に垣根が感じられない。もともと同じ部署だったにしても、部署が変われば何となくセクト意識のようなものが感じられるもの。全くなし。いかにしてそのような雰囲気になったのか、非常に気になる。

福祉王国プログラム2019の各部会

住民一人ひとりに寄り添った支援を実現するため、各部会で次のとおり目標を設定する。

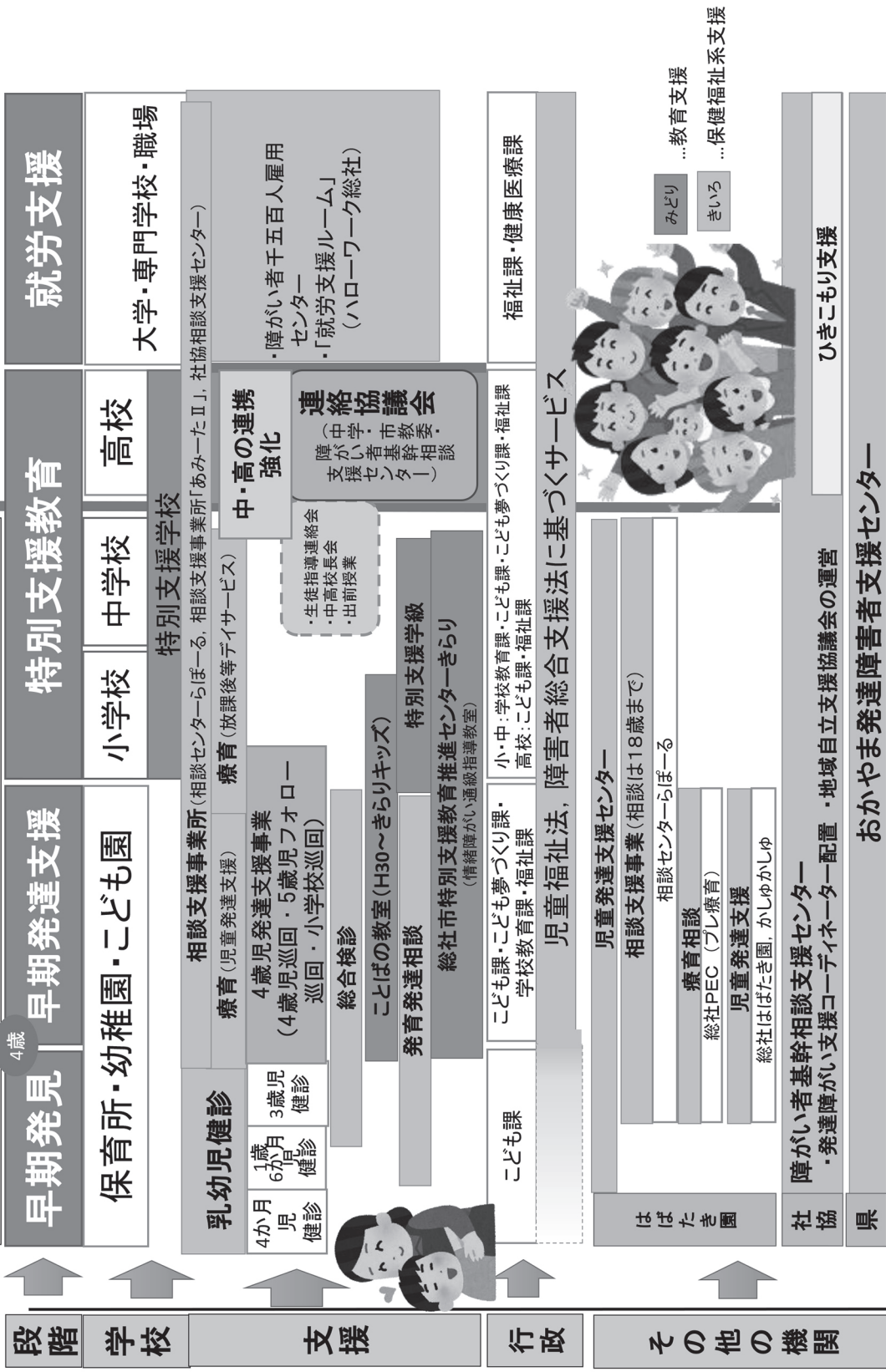


0歳

20歳

保健・福祉・教育の切れ目のない支援

そうじゃ早期一貫サポートシステム



総社市発達障がい支援部会

特定非営利活動法人きよね夢てらす 子育て応援こっこ

団体基礎データ

所在地：岡山県総社市清音軽部 666 番地

従業員数：16 名

事業会計報告： 2018 年度

収入 委託料 総社市つどいの広場事業（清音会場）3,723,000

総社市つどいの広場事業（岡山県立大会会場）1,398,000

総社市つどいの広場事業（リブ総社店会場）8,317,000

地域支援 1,360,000

合計 14,798,000

支出 委託料 総社市つどいの広場事業（清音会場）3,723,000

総社市つどいの広場事業（岡山県立大会会場）1,398,000

総社市つどいの広場事業（リブ総社店会場）8,317,000

地域支援 1,360,000

合計 14,798,000

事業別利用者数と内訳：総社市つどいの広場事業 清音会場 なかよし広場こっこ

開設時間 9:30～16:00 開設日 月・火・木・金・第4水曜日午前・第1日曜日午前

開設場所 きよね夢てらす 年間開設日数 210 日 月平均 17 日

年間利用組数（実）334 組 年間利用人数（のべ）5002 人（子ども）

登録者数（実）457 人 年間利用組数（のべ）午前 2210 組 午後 1858 組

スタッフの人数合計 16 人（保育士 11 人、助産師 1 人、栄養士 2 人、看護師 1 人、子育て支援員 1 人）

・子育てなどに関する相談、援助の実施

・地域の子育て関連情報の提供

・子育て及び子育て支援に関する講習などの実施

同級生タイム、赤ちゃんタイム、プレママタイム、パパデー、その他（つどいらっこなど）

・地域の子育て力を高める取り組み

愛育委員さんとの連携、地域の方との連携、外遊び事業、きよねスポーツくらぶとの協働事業

・利用者のエンパワメント（ママスタッフの活用、利用者同士での託児、ママ先生講座など）

・子育て支援団体などとの連携・協働事業

・その他

スタッフ会議、研修会参加、備中県民局備中子育てカレッジ学生ネットワーク事業、避難訓練

総社市つどいの広場事業 天満屋ハッピータウンリブ総社店会場 なかよし広場びよこっこ

開設時間 10:00～16:30 開設日 月～土

開設場所 天満屋ハッピータウンリブ総社店 年間開設日数 276 日 月平均 23 日

年間利用組数（実）874 組 年間利用人数（のべ）10267 人（子ども）

参加者数（実）242 人（子ども） 年間利用組数（のべ）午前 505 組 午後 364 組

スタッフの人数合計 16 人（保育士 11 人、助産師 1 人、栄養士 2 人、看護師 1 人、子育て支援員 1 人）

・子育てなどに関する相談、援助の実施

・地域の子育て関連情報の提供

・子育て及び子育て支援に関する講習などの実施

プレママ&パパタイム、双子ちゃんタイム、その他（つどいらっこ、インターナショナル広場など）

・地域の子育て力を高める取り組み

リブ総社店及び店内各店舗との連携、チラシ配布・設置、中学校高校への赤ちゃん登校日

・利用者のエンパワメント（ママスタッフの活用、利用者同士での託児、こっこ応援隊など）

・子育て支援団体などとの連携・協働事業

・その他

スタッフ会議、研修会参加、備中県民局備中子育てカレッジ学生ネットワーク事業、避難訓練

総社市つどいの広場事業 岡山県立大会会場 チュッピーひろば

開設時間 10:00～15:00

開設日 原則として第1・第2火曜日 第3・第4水曜日（8月・9月・3月は2日/週開催）

開設場所 岡山県立大学 年間開設日数 276 日 月平均 23 日

年間利用組数（実）172 組 年間利用人数（のべ）1075 人（子ども）

登録者数（実）1237 人（子ども） 年間利用組数（のべ）午前 3517 組 午後 4873 組

スタッフの人数合計 16 人（保育士 11 人、助産師 1 人、栄養士 2 人、看護師 1 人、子育て支援員 1 人）

ひろばへの学生参加 98 人（のべ/年）

・地域の子育て関連情報の提供

・子育て及び子育て支援に関する講習などの実施

Nobody's Perfect の開催など

・その他

大学・学生との連携イベント・調査研究などへの協力・連携、豪雨災害対応など

実施事業サービスと法令との関係： 子ども・子育て支援法

設置及び運営財源： 総社市からの委託費（指定管理）

HP：http://www.piyokokko.com

1. 主たる事業

NPO 法人きよね夢てらすの 10 の事業のうち「子育て応援こっこ」事業として総社市つどいの広場事業を受託。

★子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

清音会場「なかよし広場こっこ」、天満屋ハッピータウンリブ総社店会場「なかよし広場びよこっこ」、岡山県立大会会場「チュッピーひろば」の市内3会場でつどいの広場事業を実施。

★子育てなどに関する相談、援助の実施

3会場で、助産師相談、栄養士相談、歯科衛生士相談などを行う。

★地域の子育て関連情報の提供

3会場で、市における母子保健事業、地域子育て支援センターや子育てサロンについての情報提供。毎月のチラシによる情報提供、HPへの掲載、facebook、Line、instagram での情報発信。

★子育て及び子育て支援に関する講習などの実施

3会場それぞれでプレママタイム、プレママ&パパタイム（両親学級）、赤ちゃん広場、父親・母親向け講座など、会場立地に合わせたプログラムの開催。総社市子ども課及び人権まちづくり課との連携による事業を開催。にこにこ訪問、カンガルー広場、スマイル訪問、つどいらっ

こ、インターナショナル広場（外国にルーツを持つママの集まり）、保健師さんに気になる子について相談など。

★地域の子育て力を高める取り組み

3会場ごとに立地に合わせた取り組み。

清音会場では愛育委員さんや地域の方との連携に基づくプログラムや交流、夢てらすとの協働事業による外遊び事業なども行っている。リブ総社店会場ではリブ総社店及び店内店舗との連携で専門店別のプチ講座の開催、中学校高校への赤ちゃん登校日の開催など。岡山県立大会会場ではNobody's Perfectの開催、親子で楽しみ音楽会などの開催も行なっている。

★利用者のエンパワメント

ママスタッフの活用、利用者同士での託児、ママ先生による講座の開催などで、利用者が支援を受けるだけでなく、参加することで仲間と出会い、孤獨な育児から抜け出し、自ら自信を持って力を発揮できる環境づくりを行う。

★その他

月1回のスタッフ会議の開催、おかやま地域子育て支援拠点ネットワークへの参加、研修会への参加、プレーパークの開催、学生との協働イベントの開催など。

2. ここに至るまでの経緯、きっかけ

現在、子育て応援こっこは、NPO法人きよね夢てらすの構成団体として1事業を受け持つ位置付けになっているが、平成14年に、合併前の清音村直営ひろばとして清音福祉センターで活動をスタートした。児童虐待防止にもなるというつどいの広場事業を採択、「なかよし広場こっこ」の運営を開始した。総社市として合併後、市からの委託を受けるため任意団体へ移行した。当時のスタッフは10名ほど。

一方、平成14年に公立幼稚園が道路拡張のため移転することとなり、その跡地利用について、清音村長が清音小学校PTAに活用方法の検討を投げかけた。歴代PTA役員を中心に、子育てに関わる保護者から高齢者まで15団体32人で「幼稚園跡地を考える会」を発足、平成13年8月から月2回のペースで話し合いを重ね、「清音の宝となる子ども達の活動を支援すること」を目的とする建物とすることを決定。どのような建物を建てたいかについて話し合いが持たれ、自分たちで模型を作り、部屋の名前も子ども達でもわかりやすく、優しさが伝わる名前をつけた。「きよね夢てらす」という名前も公募によって、地域のみんなで決めた。

平成15年5月、「きよね夢てらす」が完成。同年11月にはNPO法人きよね夢てらす設立総会が開催され、翌年3月に認証を受けて、NPO法人きよね夢てらすが本格スタートした。

平成17年3月、清音村は山手村、総社市と対等合併。平成18年度から指定管理を受託。開設当初からなかよし広場でつどいの広場事業を行っていた子育て応援こっこは、きよね夢てらす以外に岡山県立大学とリブ総社店でもつどいの広場を総社市から委託され、平成22年、NPO法人きよね夢てらすの構成団体となった。

3. 関わってきた人（キーパーソンを探る）、もの、おかね

保健師さん 福光さんにつどいの広場運営に参加するよう声をかけた。

利用者さんで有資格者だった人がひろばスタッフに。これまでに15人。

4. 運営のコツ、運営上で苦労していること

行政の人がよくしてくれている。16名のスタッフのうち、なかよし広場びよこっこの1名が常勤。なかよし広場こっこも・チュッピーひろばでも常勤スタッフを配置したいが予算・人員面で難しい。

一時預かりの実施を検討しているが、他団体との関係とかもありなかなか実施できない。

5. 地域における連携体制とその実情

「きよね夢てらす」の立ち上がりそのものが、地域の人々の協議によって始まっており、NPO法人の運営についても利用団体、PTA、校長、町会・自治会から出している理事によって夢てらす協議会が構成されている。地域づくり協議会と夢てらす協議会のメンバーは両方に関わる人が中心で、ほぼ同じ。地域との連携体制は整っている。

6. 行政からの業務委託の有無

イ) 委託を受けている場合の委託内容と行政との関係性

NPO法人きよね夢てらすとしては、建物の運営とふるさとふれあい広場について指定管理を受けている他、こっこの総社市つどいの広場事業・草刈り・ウインターフェスティバル・北山公民館の運営を総社市から委託されている。

回答者

特定非営利活動法人きよね夢てらす理事 子育て応援こっこ代表 福光節子さん

2018年7月の西日本豪雨のとき、総社市内の工場が爆発及び火災事故を起こした。その爆風により、きよね夢てらすの玄関扉も被害を受けた。建物そのものは無事で、川の対岸、倉敷市真備町から避難して来た子育て親子を多く受け入れたという。災害時に、つい大人の被害にばかり目が向きがちなかで、幼子親子をサポート出来たのは、そこに子育て応援こっこの活動があったからと言える。

西日本豪雨の直前まで、総社市で地域まるごとケア・プロジェクトの地域人材交流研修会開催に向けて、行政の担当者と連絡を取り合っていた。豪雨により中止とさせていただき、今回のヒアリングとなった。福光さんのご案内で、洪水に見舞われた真備町にも足を運び、営業を再開していた食堂で食事をした。建て替えられた建物がある一方で、廃墟となったままの建物もあった。道路の復旧状態に、短期間でよくぞここまでと感心した。

きよね夢てらすは小学校の校庭に隣接、塀がないので、なかよし広場こっこの窓からは、小学生の姿を見ることが出来る。広い校庭に設置されたローラー滑り台に、広場利用のお子さんがチャレンジすることもあるという。地域住民が自分たちで利用の仕方を決めて運営する施設に子育てひろばがあり、地域の人たちが自由に出入りするながで親子が過ごせるというのは、地域に見守られての暮らしを実感できる環境と言える。お邪魔した日には父親の姿もあった。

「市では、何か地域課題があると必ず住民に「こういう課題があるんですが」と投げってくる。住民たちで協議して、自分たちでアクションを起こすことを決めるのを待っている」きよね夢てらすの成り立ちをお聞きする際に、真っ先に福光さんは、そうおっしゃった。それは清音村時代から、行政主導ではなく住民主体で地域のことをやって来た

ということ。総社市役所でのヒアリングでも「行政だけではやりきれない」と聞き、図らずも裏が取れてしまったと、驚いた。

NPO 法人きよね夢てらすの構成団体は、「きよね夢てらす」、「子育て応援こっこ」、総合型地域スポーツクラブ「きよねスポーツくらぶ」で、住民主体となるまちづくりを展開するため設立された「清音地域づくり協議会」の事務局も担っている。「子育て応援こっこ」、総合型地域スポーツクラブ「きよねスポーツくらぶ」は、それぞれ事業を担っており、「きよね夢てらす」は、「幼稚園跡地を考える会」を中心としたボランティア組織であり、マネジメント会員、アクティブ会員、サポーター会員、賛助会員からなり、施設管理、事業の企画・運営を担っている。また、若手メンバーによって設立された「W-Accord」は、地域の活性化や子どもの育成に向けた事業を企画・運営、世代間の連携、地域団体との連携のもと、まちづくりに貢献している。このほか「おたまじゃくしの会」、「清音小学校PTA」「きよね地域子ども教室」とも支援・連携を図るなど、清音地区で暮らす人々の活動拠点として、地域社会の連携と生涯学習の推進という、NPO 法人きよね夢てらすの目的を着実に達成に導いている。

岡山県立大学のキャンパス内のチューピーひろば、きよね夢てらすのなかよし広場こっこ、天満屋ハッピータウンリブ総社店のなかよし広場びよこっこと、いずれも立地条件も利用者層もかなり違う。それぞれの立地条件などに合わせての子育てひろばの運営により、そこで暮らす親子が抱える課題や困りごと、それに対するサポート環境の整備は、とてもきめ細かい。行政が全国屈指の福祉先駆都市の実現を目指し取り組む中で、市民活動団体との連携はもちろん念頭にあるだろう。子育て応援こっこの他団体との連携・協働事業の概要からも伺える。その一つ一つをきちんと積み上げての今、そしてこれから。子育て応援こっこの他団体との連携・協働事業の概要を以下、記しておく。

【子育て支援団体などとの連携・協働事業】

岡山子育てネットワークへの参加

岡山県立大学などの先生との連携

おかやま地域子育て支援拠点ネットワークへの参加

CAP 岡山との協働事業

岡山県立大学実習生受け入れ

岡山医療センター附属看護学校助産科県立大学実習生受け入れ

県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会への参加

小児科医による研修会

子ども・子育て会議への参加

県立大学生への大学卒論協力

子育てひろば全国連絡協議会基礎研修・応用研修でのファシリテーター参加

岡山県助産師会との協働事業

こども防災ネットワークおかやまとの協働事業

総社市自殺対策連絡協議会への参加

「子育て王国そうじゃ」まちづくり実行委員会への参加

その他として 備中県民局の備中子育てカレッジ学生ネットワーク推進事業



きよね夢てらす外観



なかよし広場こっこ



なかよし広場こっこ



チュッピー広場（岡山県立大学内）



繁華街の大規模商業施設内にあるつどいの広場・なかよし広場びよこっこ



なかよし広場こっこから小学校の校庭が望める



なかよし広場こっこ利用の幼児も挑戦することがあるローラー滑り台（清音小学校）